

## 桜と「謝謝台湾」

(公財) 交流協会台北事務所 総務部長 岡田健一

春と言えば桜ですが、関係が益々緊密化する日台関係を象徴するかのよう、今春、台湾では桜の植樹が次々に行われ、東日本大震災時の台湾からの大きな支援に対する日本人の感謝が続々と伝えられました。

まず、3月7日、海部俊樹・元総理が訪台され、同日、孫文を記念する国父記念館にて、また、3月9日には台北市内の世新大学にて、合計100本以上の桜の植樹が行われました。総統府での会談の際、海部元総理は、東日本大震災時の台湾からの支援に対する謝意を表明され、これに対して馬英九・総統は、日台関係は歴史的な高みに到達したと発言されました。

続いて、3月23日、衛藤征士郎・衆議院副議長及び吉野正芳・衆議院議員が約130人の日本人とともに訪台され、24日、台中市内の100年前に日本人が造成した台中公園において、101本の桜と101本の梅の植樹式が行われました。衛藤副議長は、実は昨年も台湾への感謝表明のために訪台されましたが、その時、一年後に再度訪台して感謝の気持ちを込めて植樹したいと発言されたことを、約束通り今回実現されたものです。植樹に参加した胡志強・台中市長は、衛藤副議長の台中訪問及び植樹への感謝を示されました。また、総統府において会談した馬英九総統は、衛藤副議長に対し、「有言実行の政治家」であられると述べるとともに、日台関係の更なる進展への希望を表明されました。

さらに、4月12日、森喜朗・元総理が訪台され、14日、台南で80年前にダムを築いて現地の灌漑

問題を解決した功績が今も感謝されている八田與一氏の記念公園において、250本の河津桜の植樹式が行われました。式典には、森元総理とともに訪台した約170人の日本人に加え、台北と高雄の日本人学校生徒を含む台湾在住日本人約170人も参加し、日本人総勢約350人、更に殆ど同数の台湾の人々が参加し、極めて盛大な行事となりました。式典の席上、森元総理は、東日本大震災後に台湾からは世界一の御支援をいただいたが、これは真心がなくては集まらない支援であり、このような御支援に対して感謝を伝えるために植樹すべく訪台したが、今回の植樹が益々日台関係を深めていくことを希望する旨述べられました。また、今回の植樹式を企画実施した日台スポーツ・文化推進協会の松本或彦理事長が、被災地のみならず日本全体を代表するつもりで感謝を伝えるために植樹を企画したが、今回、植樹に参加した日本人は皆、今後は毎年春が来る度に、八田與一記念公園の桜は今年ももう咲いているだろうかと思いを馳せ、同時に、八田與一氏を含む日本に対する台湾の人々の温かい気持ちを思い出すことであろう、万感の思いを込めて植樹をしたいと発言されました。これに対して、頼清徳・台南市長は、東日本大震災の際に台湾が日本に届けた支援は、日本に対する台湾の気遣いと支援が無限であることを示したが、その支援に対して、森元総理及び数百人もの日本人の方が参加して桜の植樹式が行われたことは、台湾と日本人の心の繋がりを更に強化し、日台関係をさらに強固なものにする歴史的な意義があると発言されました。馬英九総統は外国訪問中でしたが、台北においても、王金平・立法院長等の要人から森元総理に対して感謝の念が伝えられ、また、植樹自体も大きく報じられま

した。

以上のような一連の桜の植樹は、現在の日台関係の深まりを象徴するような、美しい春的一幕だった気がします。交流協会も東京の本部、台北事務所及び高雄事務所が今回の各行事に様々な形で御協力をさせていただきましたが、台湾から頂いた支援に対する日本側の謝意が、単に言葉で示

されるだけでなく、行動によって、そして美しく後世に引き継がれていく形で示されたことは、日台関係の今後の発展にとり大きな礎となったことと思います。桜の植樹活動に携わられた日台双方の全ての関係者の皆様、そして、もちろん、それ以外の分野で日台関係の強化のためにご尽力されている皆様に、改めて心からの敬意と謝意を表したいと思います。

